

# 12月だけおクリニック通信114号 ① ★★

★ 主任の一言 ★★

**インフルエンザ予防接種**

**まだご予約受付中です。**

！！ 糖尿病専門医 田中先生 ！！

こんにちは。

毎日すごく寒い日が続いておりますが、皆様体調は崩されておられませんでしょうか？🤖

私は、就寝前にハーブティーを飲むのが癒しのひと時です！（KUSUMI TEA というブランドがパッケージもフレーバーもとにかくオシャレでお気に入りです♡）

さて今年もいよいよ残りわずかになりました。

今年はコロナに始まり、コロナで終わる1年でした。

伴い、リモートやソーシャルディスタンス、3密等、新しいワードが世間を席卷し（今年の「新語・流行語大賞」の年間大賞は3密でしたね）、同時に各々が新しいライフスタイルを模索し順応しようと努めた1年だったと思います。

困難が多かった1年でしたが、同時に「こんな時だからこそ」自分の原点に立ち返って改めて気付かされたこともあったのではないのでしょうか。

今日は、インフルエンザのお話です。通常は12月～翌年の3月にかけて流行すると言われていますが、新型コロナウイルス感染症流行以降は、インフルエンザウイルス感染者が激減しています。

古い論文にはありませんが、JAMA 2020年4月号の「Seasonal Influenza Activity During the SARS-CoV-2 Outbreak in Japan」を簡単にご紹介します。

日本国内にて、2019-2020年対2014-2019年での、前年度40週目（9月末）～翌年度11週（3月半ば）のインフルエンザ（PCR検査で診断）罹患人数の見積もり件数を比較したものです。

図表で示すように、従来は、年末から罹患人数は増加し、翌年の4/6週でピークを迎えますが、2019-2020年度は、年末にかけて増加するもののその後は上がり止まり、翌年に入ると逆に失速傾向でした。時系列でイベントと照らし合わせると、2020年第1週で、初めて武漢で原因不明の肺炎発症が報告され、そこからSARS-CoV-2ウイルスの存在が明らかになり、国内で積極的にマスク装着や手洗い、消毒が推奨され、緊急事態宣言発令に伴う商業施設や学校の休業や大規模イベントの中止、リモートワークの推奨、海外渡航制限等の措置と同じくして、インフルエンザ罹患数の減少を認めていることがわかります。

もちろん、インフルエンザの活動性は、その年の気候やウイルスの毒性によっても左右されますが、この結果を踏まえると、いかに基本的な手洗い、うがい、マスク装着が感染予防に有効か実感できると思います！

# ★★ 12月だけおクリニック通信 114号②

2020年12月発行 第114号

だけおクリニック

総院長 竹尾浩紀

東京都世田谷区太子堂 4-22-1

森住ビル 3階

図みにインフルエンザウイルスと新型コロナウイルスに同時に罹患することはあるのでしょうか？

Lancet や BMJ 等の論文で 2 つにウイルスに同時感染したケースレポートが複数挙がっていますが、どの症例も大体年齢は 50 歳以上、且つ慢性腎臓病や糖尿病、狭心症等の基礎疾患があり、呼吸苦や高熱等の症状が見られました。

インフルエンザウイルスは、SARS-CoV-2 と比較し、短期間で感染が広がる反面、症状は軽度であることが知られていますが、ただ一方で子供や妊婦さん、基礎疾患のある高齢者の方では症状が重症化するともいわれています。よって同時にこれらのウイルスに重複感染した場合、症状が重症化するリスクもあるため、リスクがある方は、インフルエンザウイルス感染の予防で、予めインフルエンザワクチンの接種が望ましいと思われまます。

さて、皆様、最後になりましたが、今年 1 年誠にありがとうございました。また来年もどうぞ当院をよろしくお願い申し上げます。

【図】 インフルエンザの年代別の発症数推移

